



2024年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年7月31日

上場会社名 株式会社 バッファロー

上場取引所 東

コード番号 3352 URL <https://www.buffalo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 坂本 裕二

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 管理本部長 (氏名) 日下部 直喜

TEL 048-227-8860

四半期報告書提出予定日 2023年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	2,620	6.2	76	15.4	85	19.9	50	21.8
2023年3月期第1四半期	2,466	8.6	90	130.0	107	51.4	65	39.8

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 51百万円 (21.7%) 2023年3月期第1四半期 65百万円 (40.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	21.73	
2023年3月期第1四半期	28.64	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	8,469	5,988	70.7
2023年3月期	8,237	5,996	72.8

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 5,988百万円 2023年3月期 5,996百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		20.00		25.00	45.00
2024年3月期(予想)		25.00		25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,156	3.3	578	10.0	610	8.0	400	23.0	170.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期1Q	2,345,874 株	2023年3月期	2,345,874 株
期末自己株式数	2024年3月期1Q	2,444 株	2023年3月期	2,444 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期1Q	2,343,430 株	2023年3月期1Q	2,273,146 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、2023年5月より新型コロナウイルス感染症が感染症法2類から5類へ移行するなど経済活動の平常化が進み、緩やかな回復基調で推移しました。その一方で、ロシア・ウクライナ情勢の長期化による原材料価格やエネルギー価格の高騰と、世界的な金融引き締めによる円安を背景に物価の上昇が続いており、国内消費に及ぼす影響への懸念から経済の先行きは不透明な状況となっております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、「アフターコロナ」に移行しつつある経済環境・ライフスタイルにおける、新たな社会的ニーズに対応すべく業容改革を推し進め、生活インフラである車関連事業及び外食事業を通じ地域社会に寄与すべく営業活動を行ってまいりました。

当社グループのセグメントごとの業績は、次のとおりであります。

<オートバックス事業>

当第1四半期連結会計期間末におけるオートバックス事業の店舗数は、15店舗であります。当第1四半期連結累計期間中における店舗の新設及び廃止はございません。

オートバックス事業が属する国内カー用品市場の環境につきましては、自動車メーカー各社の減産の要因となっていた半導体の供給不足が徐々に解消に向かい、国内新車販売台数は前年同期を上回ることとなりました。また、ゴールデンウィーク等の行楽需要もコロナ禍前の水準まで回復し、これによりロングドライブに関連した消耗品の販売が伸長しております。反面、カーナビゲーション・ドライブレコーダーにつきましては、普及率の高まりに伴う市場縮小が続き低迷することとなりました。

このような環境の中で当社グループは、「クルマのことならオートバックス」の実践を通じた地域ナンバーワンの店づくりを目指し、顧客満足度向上のための接客・接客力の強化、技術力を備えた専門スタッフの育成に取り組んでおります。また、快適で鮮度が高い魅力的な売場による集客力の向上を図るべく、2023年5月にスーパーオートバックス環七王子神谷の店内全面改装を行い、より利便性の高い、回遊性に優れた売場へのレイアウト変更、及びウェイティングルームをリニューアルするなど既存店リノベーションへの取組みを推進いたしました。販売施策といたしましては、中期的な重点分野と位置付けるボディコーティングやヘッドライトコーティングメニュー等、車の美観向上に関するピットサービスメニューの業容拡大のため、施工設備の導入・技術スタッフの育成に注力し、順調に売上を伸ばしております。タイヤ販売につきましては、原材料価格の高騰による仕入価格の上昇が続く中、消費者の節約志向に対応すべく低価格帯商品を充実させた売場づくりに努めたほか、値上前の告知による駆け込み需要の影響もあり、販売数量・販売金額ともに前年同期を上回ることとなりました。また、オイル・バッテリー部門につきましては、前連結会計年度にてWeb予約システムによるオイル交換の即日作業予約を可能とし、作業レーンを拡大する等、ピットでの受け入れ体制を強化したことにより、オイル・バッテリーとも売上が増加しております。車販売部門につきましては、中古車市場の活況を背景として買取り・オークション販売台数が大幅に増加しました。

これらの取組みにより、オートバックス事業の売上高は2,447,160千円（前年同期比6.4%増）となりました。

<飲食事業>

当社グループは、2019年7月に設立した子会社「株式会社バップアローフードサービス」において、(株)焼肉ライクがチェーン展開する『焼肉ライク』のフランチャイジーとして飲食事業を運営しております。当第1四半期連結会計期間末における飲食事業の店舗数は、前連結会計年度末までに開設した8店舗となっております。

『焼肉ライク』は、「Tasty! Quick! Value!」をキャッチフレーズに、1人1台の無煙ロースターを導入し、お客様が好きな部位を好きなだけ楽しむことができる、個人客をメインターゲットにした新感覚の“焼肉ファストフード店”であります。

飲食事業が属する外食業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の感染症法2類から5類への移行に伴い、来店客数は回復基調で推移することとなりました。その一方で、原材料価格やエネルギー価格の高騰、人手不足の深刻化等により、経営環境は引き続き厳しい状況となっております。

当社グループといたしましては、お客様・取引先様・従業員の安全と健康に引き続き配慮をしつつ、周辺地域への認知度向上とサービス充実に努めてまいりました。販売施策といたしましては、焼肉ライク本部主導のもと、空輸による鮮度の高い高品質なラム肉をお客様に提供する「スプリングラム“春だけの生ラム”」や、焼肉セットのご注文でごはん・キムチ・スープがおかわり自由となる「無限ごはん」などの期間限定企画を実施することにより、新たな客層の開拓と収益の拡充を図っております。

これらの取組みにより、飲食事業の売上高は173,162千円（前年同期比4.2%増）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,620,323千円（前年同期比6.2%増）、営業利益76,264千円（同15.4%減）、経常利益85,733千円（同19.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益50,921千円（同21.8%減）となりました。

セグメント別の売上高は次のとおりであります。

セグメント	前第1四半期 連結累計期間		当第1四半期 連結累計期間		前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)
オートボックス事業	2,300,098	93.3	2,447,160	93.4	10,099,560	93.6
飲食事業	166,223	6.7	173,162	6.6	696,076	6.4
合計	2,466,321	100.0	2,620,323	100.0	10,795,636	100.0

各品目別の売上高及び構成比は次のとおりであります。

品目	前第1四半期 連結累計期間		当第1四半期 連結累計期間		前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)
ピット・サービス工賃	750,747	30.4	808,860	30.9	3,090,619	28.6
タイヤ・ホイール	511,264	20.7	547,977	20.9	2,632,953	24.4
アクセサリ・メンテナンス用品	399,694	16.2	420,592	16.1	1,669,367	15.5
カーエレクトロニクス	246,600	10.0	222,455	8.5	906,685	8.4
オイル・バッテリー	191,869	7.8	218,679	8.3	896,226	8.3
車販売	181,445	7.4	210,115	8.0	828,025	7.7
飲食	166,223	6.7	173,162	6.6	696,076	6.4
その他	18,475	0.7	18,479	0.7	75,682	0.7
合計	2,466,321	100.0	2,620,323	100.0	10,795,636	100.0

(注) 1. 「飲食」につきましては、2022年4月に「焼肉ライク ekie広島店」・「焼肉ライク 南池袋店」、2022年10月に「焼肉ライク 川口駅東口店」を開設し、当第1四半期連結累計期間より通期での営業を行っております。

2. 各品目の主な内容は、次のとおりであります。

品目	主な内容
ピット・サービス工賃	オイル交換、タイヤ交換、各種用品取付、板金・塗装、車検・整備、ボディーコーティング、ヘッドライトコーティング、車内クリーニング
タイヤ・ホイール	夏用タイヤ、冬用タイヤ、アルミ・スチールホイール
アクセサリ・メンテナンス用品	チャイルドシート、キャリア、チェーン、車内アクセサリ、ドレスアップ用品（ステアリング、シート、ランプ等）、チューンナップ用品（エアロパーツ、マフラー、サスペンション等）、省燃費用品等
カーエレクトロニクス	カーナビゲーション、カーTV、ドライブレコーダー、DVD・CD・MDプレーヤー、スピーカー、アンプ、接続具等
オイル・バッテリー	国産・輸入エンジンオイル、国産車用・外車用バッテリー
車販売	新車及び中古自動車
飲食	店舗における飲食サービス

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は5,222,444千円となり、前連結会計年度末に比べ148,822千円（前連結会計年度末比2.9%）増加しました。これは主に現金及び預金114,317千円及び売掛金25,688千円の減少に対して、商品250,949千円及び流動資産のその他に含まれる前渡金36,642千円が増加したことによるものであります。固定資産は3,247,383千円となり、前連結会計年度末に比べ83,344千円（同2.6%）増加しました。これは主に有形固定資産の増加76,448千円によるものであります。

この結果、総資産は8,469,827千円となり、前連結会計年度末に比べ232,167千円（同2.8%）増加しました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は1,619,923千円となり、前連結会計年度末に比べ212,097千円（前連結会計年度末比15.1%）増加しました。これは主に未払法人税等80,981千円及び流動負債のその他に含まれる前受金31,454千円の減少に対して、買掛金327,360千円及び賞与引当金31,104千円が増加したことによるものであります。固定負債は861,250千円となり、前連結会計年度末に比べ27,645千円（同3.3%）増加しました。これは主に固定負債のその他に含まれるリース債務17,504千円及び退職給付に係る負債11,717千円が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は2,481,173千円となり、前連結会計年度末に比べ239,742千円（同10.7%）増加しました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は5,988,654千円となり、前連結会計年度末に比べ7,575千円（前連結会計年度末比0.1%）減少しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び配当金の支払の結果として利益剰余金が7,663千円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は70.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績は概ね計画通り推移しており、現時点での2024年3月期の業績予想につきましては、2023年5月9日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,776,476	2,662,158
売掛金	619,321	593,633
商品	1,202,331	1,453,280
その他	475,492	513,371
流動資産合計	5,073,622	5,222,444
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,263,141	2,319,307
減価償却累計額	△1,299,575	△1,310,582
建物及び構築物(純額)	963,565	1,008,724
土地	686,694	686,694
その他	815,740	861,093
減価償却累計額	△503,326	△517,390
その他(純額)	312,413	343,702
有形固定資産合計	1,962,673	2,039,122
無形固定資産	12,317	11,584
投資その他の資産		
差入保証金	671,805	662,295
その他	517,241	534,381
投資その他の資産合計	1,189,047	1,196,676
固定資産合計	3,164,038	3,247,383
資産合計	8,237,660	8,469,827
負債の部		
流動負債		
買掛金	500,412	827,772
1年内返済予定の長期借入金	8,120	—
未払法人税等	149,630	68,648
賞与引当金	139,305	170,410
その他	610,357	553,091
流動負債合計	1,407,825	1,619,923
固定負債		
退職給付に係る負債	567,780	579,497
資産除去債務	98,118	98,509
その他	167,705	183,243
固定負債合計	833,605	861,250
負債合計	2,241,430	2,481,173
純資産の部		
株主資本		
資本金	653,084	653,084
資本剰余金	627,597	627,597
利益剰余金	4,715,746	4,708,082
自己株式	△117	△117
株主資本合計	5,996,311	5,988,647
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△81	7
その他の包括利益累計額合計	△81	7
純資産合計	5,996,229	5,988,654
負債純資産合計	8,237,660	8,469,827

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	2,466,321	2,620,323
売上原価	1,236,146	1,354,603
売上総利益	1,230,175	1,265,719
販売費及び一般管理費	1,140,063	1,189,455
営業利益	90,111	76,264
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,532	2,218
受取手数料	1,904	2,046
受取協賛金等	11,750	4,221
その他	3,666	4,050
営業外収益合計	19,852	12,537
営業外費用		
支払利息	2,152	2,190
固定資産除却損	0	746
その他	714	130
営業外費用合計	2,866	3,068
経常利益	107,097	85,733
税金等調整前四半期純利益	107,097	85,733
法人税、住民税及び事業税	49,091	57,757
法人税等調整額	△7,095	△22,945
法人税等合計	41,996	34,811
四半期純利益	65,101	50,921
親会社株主に帰属する四半期純利益	65,101	50,921

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	65,101	50,921
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	55	88
その他の包括利益合計	55	88
四半期包括利益	65,156	51,010
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	65,156	51,010
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結財務諸表計上額 (注) 2
	オートボックス 事業	飲食事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,300,098	166,223	2,466,321	—	2,466,321
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,300,098	166,223	2,466,321	—	2,466,321
セグメント利益又は損失(△)	192,369	△22,504	169,864	△79,753	90,111

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△79,753千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結財 務諸表計上額 (注) 2
	オートボックス 事業	飲食事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,447,160	173,162	2,620,323	—	2,620,323
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	—	—	—	—
計	2,447,160	173,162	2,620,323	—	2,620,323
セグメント利益又は損失 (△)	179,346	△18,501	160,845	△84,580	76,264

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△84,580千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。